

会社情報 (2018年12月31日現在)

会社名	株式会社ソディック	資本金	207億8,525万6,958円
所在地	本社 〒224-8522 横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号 TEL:045-942-3111(代表)	代表者	古川 健一
設立	昭和51年8月3日	従業員数	755人(連結3,676人)
		連結子会社	22社
		持分法適用の関連会社	1社

役員 (2019年3月28日現在)

代表取締役会長	金子 雄二	社外取締役	栗原 俊明※
代表取締役社長	古川 健一	社外取締役	古田 勝久※
代表取締役副社長	高木 圭介	社外取締役	稲崎 一郎※
専務取締役(上席執行役員)	松井 孝	社外取締役	工藤 和直※
常務取締役(上席執行役員)	前島 裕史	常勤監査役	保坂 昭夫
常務取締役(上席執行役員)	塚本 英樹	常勤監査役	渡貫 雄一
常務取締役(上席執行役員)	梅本 慶三	監査役	下條 正浩※
取締役	黄 錦華	監査役	長嶋 隆※
		監査役	奥山 富夫

※東京証券取引所の定める独立役員であります。

ソディック ホームページ 「IR情報」のご案内

株主・投資家様向けの情報を
開示しています。是非ご覧ください。

<https://www.sodick.co.jp/ir/>

コーポレートサイト



IRサイト



Sodick

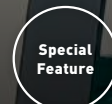
株式会社 ソディック
〒224-8522
横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号
TEL:045-942-3111



Sodick

Sodick Times

2018年12月期(第43期)事業報告書
2018年1月1日～2018年12月31日



世界同一品質の発信元となる新たな生産拠点
マルチファクトリー

株式会社 ソディック

東証1部:6143



生産・営業・開発体制のさらなる強化によりグローバルシェア拡大に取り組んでまいります

代表取締役社長
古川 健一

Q.1 2018年12月期の業績について教えてください。

放電加工機の販売台数の増加と生産性の向上により、売上高・営業利益とも過去最高を更新しました。

当社売上高の4割程度を占める中華圏において、上期は自動車関連、半導体関連を中心に継続的な需要が見られ、放電加工機の販売台数が大きく伸びた一方、第3四半期以降は、米中貿易摩擦による企業の投資判断の先送りなどが顕在化し、需要は減少しました。国内においては、自動車及び半導体関連需要が継続するとともに、北米でも自動車関連、医療機器関連の需要が堅調に推移いたしました。また、欧州、その他アジア地域においても、底堅く推移いたしました。

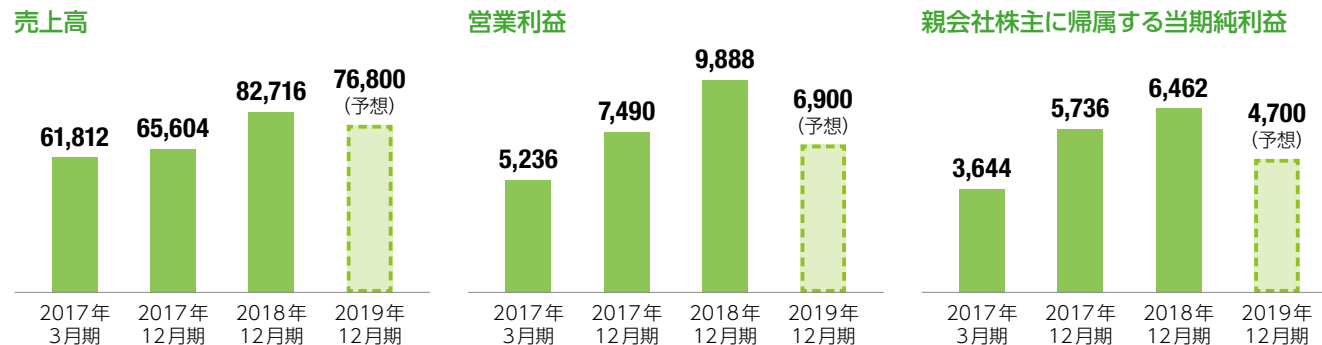
2018年12月期の業績は売上高827億16百万円、営業利益は98億88百万円となり過去最高を更新いたしました。

Q.2 取り組みと成果について教えてください。

積極的な展示会への出展により世界におけるブランド力を強化すると共に、各地域での設備投資を進め、経営基盤強化を図りました。

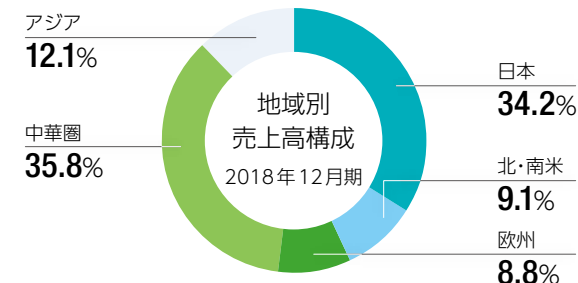
中長期的な観点から経営基盤強化の一環として、各地域における設備投資を積極的に行いました。生産拠点につきましては、国内では加賀事業所に多種多様な製品の生産を可能とするマルチファクトリーを11月に竣工し、海外ではタイの第2工場を増設し、生産体制を強化しました。販売拠点につきましては、中国では販売台数増加を促進するため上海オフィスに移転し、北米では販売・サービス体制強化のため新社屋を建設し、ショールームを拡張しました。研究開発については、横浜本社に新研究開発棟を建設し、金属3Dプリンタ関連の研究開発、新電源、新世代CNC等の新たな要素技術の開発、次世代技術の開発を強化しました。

連結損益計算書の概要 (単位:百万円)



※2017年12月期は決算期変更に伴い、9か月の変則決算となっております。

地域別の売上高構成



2018年12月期の連結対象期間

	2017年12月期				2018年12月期			
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
旧3月決算会社	1Q	2Q	3Q		1Q	2Q	3Q	4Q
12月決算会社	9か月				12か月			
	12か月				12か月			

※12月決算会社は、中国の連結子会社7社です。

Q.3 株主還元について教えてください。

当社は将来の事業展開と経営体質強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定かつ継続的な配当の実施を基本方針としており、DOE（株主資本配当率）2%以上を目標に掲げております。2018年12月期は1株当たり年間24円の配当とさせていただきます。2019年12月期は1株当たり年間25円とし、1円の増配を計画しています。

1株当たり配当金

	2018年12月期	2019年12月期(予想)
中間	12円	12円
期末	12円	13円
年間	24円	25円

Q.4 2019年12月期通期見通しと中期経営計画について教えてください。

2019年12月期は売上高の減少を見込んでおりますが、2021年12月期までに売上高863億円、営業利益98億円を展望しております。

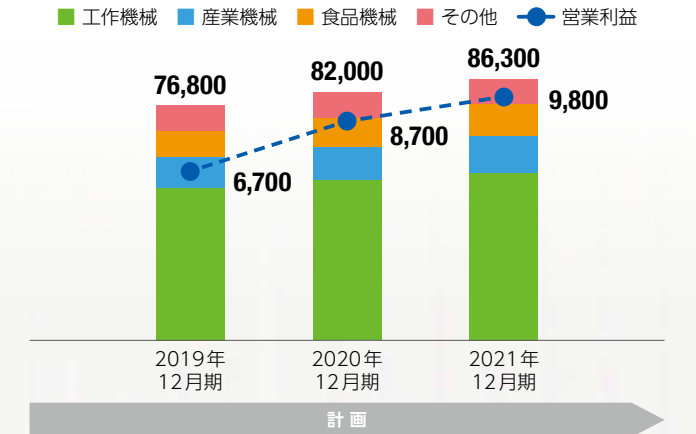
2019年12月期につきましては、中国を中心として自動車関連をはじめ他分野においても、ものづくりの高度化による高精度機の潜在的需要はあるものの、貿易摩擦等の影響による中国経済の減速により、売上高は768億円と減少する見通しです。人件費の増加及び減価償却費等の固定費増加も見込まれ、営業利益は67億円を計画しております。

中期経営計画につきましては、2021年12月期までに売上高863億円、営業利益98億円を展望しております。工

作機械事業では、新興国での低価格機種「VLシリーズ」の販売強化、先進国での高精度ワイヤ放電加工機「ALシリーズ」の販売拡大により、市場シェアの拡大を図ります。また金属3Dプリンタの販売・研究開発を加速します。また、高精度領域をターゲットとした精密マシニングセンタの販路拡大を図ります。産業機械事業では海外売上高比率70%以上を目指し、市場ニーズの高い全電動射出成形機「MSシリーズ」の販路拡大及び製造原価の低減、販売体制の再構築・営業強化を図ります。アルミニウム射出成形機「ALM450」を主力製品に育て、金属3Dプリンタ専用射出成形機「MR30」による自動生産システム「ICF-V」の販路拡大に取り組みます。食品機械事業では、工場拡張による生産能力の増強及び収益力強化を目指します。特に国内外での無菌包装米飯製造装置の販路強化を図ります。

中期経営計画

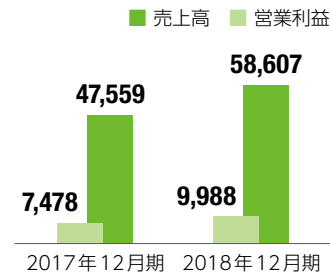
(単位:百万円)



セグメント別の概況 (単位:百万円)

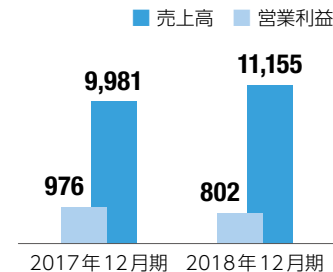
工作機械事業

放電加工機、マシニングセンタ、金属3Dプリンタ等の開発・製造・販売



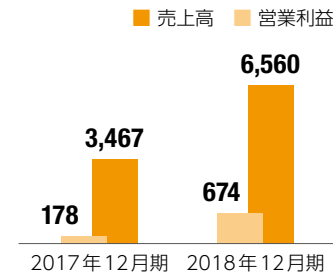
産業機械事業

射出成形機等の開発・製造・販売



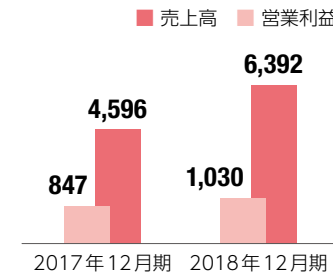
食品機械事業

製麺機無菌包装米飯製造装置等の食品機械及びその応用製品の開発・製造・販売



その他事業

プラスチック成形品等の製造・販売、セラミックス製品、リニアモータ応用製品及びその制御機器、LED照明等の開発・製造・販売、当社製品等のリース



※2017年12月期 は決算期変更に伴い、9か月の変則決算となります。



Special Feature

世界同一品質の発信元となる新たな生産拠点

マルチファクトリー

ソディックグループは中長期的な成長に向けて、生産拠点、販売拠点、研究開発に関わる設備投資を行い、経営基盤の強化に注力しています。本特集では2018年11月、新たに加賀事業所に竣工したマルチファクトリーについてご紹介します。

生産品目を限定せず、マルチプルな生産が可能に

2018年11月27日、国内の主要生産拠点である加賀事業所内に「マルチファクトリー」が完成しました。国内で約30年ぶりの大型投資となるマルチファクトリーは、事業環境や市場動向の変化、各種機械の受注動向に対応し、生産品目を限定せず、柔軟かつマルチプルに生産できる工場です。国内の主力工場として、高精度・超精密な形彫り・ワイヤ放電加工機、マシニングセンタ、金属3Dプリンタ等の工作機械群、高付加価値・高難易度成形品に特化した射出成形機など、お客様のニーズに合った製品を製造していきます。

また、加賀事業所には、製造部のほか、工作、産業、食品など各事業部の技術者が多く、各部署が連携をとることで、特殊用途や特殊仕様などへの順応性のある対応や、新機種や新機能を備えた高付加価値な製品の早期市場投入など、激しい市場環境の変化に迅速に対応できる体制となっています。

生産効率アップ、納期短縮を実現

マルチファクトリーでは、セル生産での自動組立や、IoTを活用した生産管理及び在庫管理を行うことで、省人化や作業効率の向上を図り、生産効率の向上及び納期短縮を目指します。また、2018年3月に稼働した物流センターと隣接しており、移動の簡易化や出荷効率アップ、コスト削減を図っています。

形彫り・ワイヤ放電加工機

世界同一品質の発信と同時にグローバル展開に対応

マルチファクトリーは当社がかねてより進めてきた「世界同一品質」強化のための発信元と位置付けています。海外工場へノウハウを展開し、生産効率向上や納期短縮にも積極的に寄与していきます。

また、世界的なハイエンド機への構造的なシフトに対応すべく、性能及び品質向上を目的に、様々な最新設備を設置しております。テストルームには恒温室や熱変位室を備えるなど徹底した空調管理の下でテスト加工を行っています。また、新設した自社製NC装置向けのプリント基板の生産設備は、世界最小チップの搭載に対応しており、より高精度な基板の製造が可能になるほか、徹底した自動化により、人の判断が不要となる基板の生産ラインを実現しました。



専務取締役(工作機械事業統括担当)

松井 孝



施設概要

所在地 石川県加賀市宮町 11-1
(加賀事業所敷地内)
建設面積 約 12,500㎡
延床面積 約 16,500㎡
投資総額 約 32 億円
生産品目 放電加工機、マシニングセンタ、
金属3Dプリンタ、射出成形機 等



新しいテレビCM「希望の翼」篇を、オンエアいたしました。

ソディックでは、「鉄腕アトム」の楽曲をBGMに採用し、その世界観と企業スローガンである“世の中にないものは自分たちで創る”を融合させた企業CMを2015年より展開してきました。当社の新技術や新製品が、“創る”の未来に思いを馳せるものづくりの現場で活躍する状況が、今もなお愛され続ける「鉄腕アトム」の姿にシンクロしています。

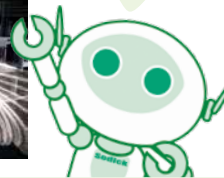
2018年12月よりオンエアを開始した新テレビCM「希望の翼」篇では、未来志向のものづくりを支援するソディック社員を出演者に起用し、“創造”に邁進する姿にスポットをあてました。また新しいシンボルマーク「S-WING」を全面に打ち出すとともに、キャッチコピー「『創る』その先へ 羽ばたけ、ソディック!」で当社の“創造”に邁進する企業理念を訴求しています。日常のものづくりに取り組む社員を見守る役柄として、当社イメージキャラクターの本仮屋ユイカさんにご出演いただくとともに、BGM「鉄腕アトム」の歌は、矢沢永吉さんのご令嬢で歌手の矢沢洋子さんにご担当していただきました。



CMストーリー

草原に佇む本仮屋ユイカさん。バッグからタブレット端末を取り出して画面を見る。そこに映るのは日々研究開発に励むソディック社員の姿。タブレット端末にペンツールで何かを描き始める本仮屋さん。描いているのは社員の背中に翼。すると作業中の社員の背中には次々と光る翼が…。ナレーション「それは、未来を見据えた希望の翼。」新ロゴマーク「S-WING」と「羽ばたけ、ソディック」のキャッチコピーがラストシーンを飾ります。

社員も出演しています。



このCMを通して、お客様、株主様、投資家様、学生とご家族様、工作機械や産業機械、食品機械等をご存知ない方にも広く当社を知っていただくきっかけになればと考えています。

当社HPでCM動画を配信中です。ぜひご覧ください! <https://www.sodick.co.jp/news/detail.php?newsid=372>

スマートフォンの方はこちらから



業績・財務ハイライト

当期の業績について

中華圏を中心に放電加工機の販売が増加し、売上高・営業利益共に過去最高を更新。販売台数増加と生産性向上により利益率が改善。

売上高 **827.16** 億 百万円

営業利益 **98.88** 億 百万円

連結貸借対照表の概要 (単位:百万円)

資産の部

資産合計	121,815	資産合計	119,555
流動資産	87,527	流動資産	81,422
固定資産	34,287	固定資産	38,132
前期末 2017年12月31日 現在		当期末 2018年12月31日 現在	

負債・純資産の部

負債・純資産合計	121,815	負債・純資産合計	119,555
流動負債	36,349	流動負債	31,809
固定負債	30,298	固定負債	29,615
純資産	55,166	純資産	58,129
前期末 2017年12月31日 現在		当期末 2018年12月31日 現在	

連結キャッシュ・フロー(CF)計算書の概要 (単位:百万円)

現金及び現金同等物の期首残高	36,075	営業活動によるCF	9,275	投資活動によるCF	△ 8,188	財務活動によるCF	△ 3,485	現金及び現金同等物に係る換算差額等	△ 1,026	現金及び現金同等物の期末残高	32,650
当期 (2018年1月1日～2018年12月31日まで)											

POINT B/S: 資産は、現金及び預金、受取手形及び売掛金の減少により前年度末に比べ22億59百万円減少。建物及び構築物の増加などにより一部相殺され、1,195億55百万円となりました。

POINT C/F: 営業CFは、税金等調整前当期純利益、減価償却費などの増加により、92億75百万円と大幅増。投資CFは、主に有形固定資産の取得による支出で81億88百万円減。財務CFは、長期借入金の返済や配当金の支払などにより34億85百万円減。現金及び現金同等物の期末残高は前期末比で34億25百万円減の326億50百万円となりました。

IRサイトでさらに詳しく

IRサイトでは、決算短信、決算説明資料など更に詳しい決算情報をご覧になれます
https://www.sodick.co.jp/ir/ir_note.html

ソディックIR

検索





事業部訪問: 工作機械事業部 システムエンジニアリング課

技術力を発揮してお客様の要望を実現

ソディックを支える各事業部での業務を紹介します！今回はシステムエンジニアリング課です。

Q 業務内容について教えてください。

A 所属しているシステムエンジニアリング課で、私は国内向け特殊放電加工機の電気設計を担当しています。電気回路図の出図、部材の選定、製造部間等への作業指示書の作成などが主な業務になります。システムエンジニアリング課は5名体制で、電気担当は私を含め2名で行っています。



Q 仕事でのやりがいは？

A 標準機ではなく、特殊機のため、お客様によって仕様が異なります。毎回各仕様に合わせた新しい回路を設計するのは大変ですが、お客様の要望に応えられた時にやりがいを感じます。また、最近ではIoT関連の特殊対応なども行っています。

Q ソディックの強みを教えてください。

A 毎月開催の開発会議に参加させていただいていますが、当社の技術力の高さを感じています。その技術力を応用して、お客様の要望を実現させるために色々な検討をしています。それ以外にも、工作機械事業部では工場内で自動搬送装置や、IoTを上手く活用した生産体制に取り組んでいます。

Q 入社後の研修内容を教えてください。

A 新入社員を対象としたタイ工場での研修に参加し、組立から製造まで実際に放電加工機の製造工程を一通り学びました。タイ工場では女性作業員が多いことに驚きました。現地の女性技術者はスキルがものすごく高く、作業のポイント等を教えてもらうことが多かったです。高いポテンシャルを持ちながら、モチベーションを持って働く姿勢に驚きました。

Q 目標やキャリアプランを教えてください。

A 今は仕事をするうえで上司にフォローしてもらいたいので、できる限り一人でできるよう、得た知識を正しくアウトプットできるようになりたいと思っています。



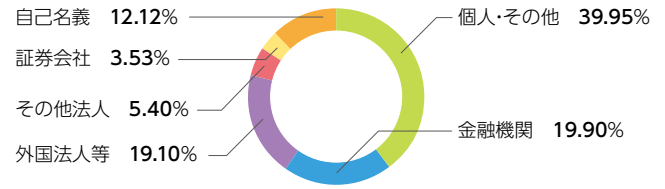
工作機械事業部 塚野 紗世

株式情報 (2018年12月31日現在)

株式情報

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式総数	53,450,916株
株主数	13,983名

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	1月1日～12月31日
株主確定日	● 定時株主総会、期末配当金: 12月31日 ● 中間配当金: 6月30日 毎年3月
定時株主総会 公告の方法 (公告掲載URL)	電子公告により行う https://www.sodick.co.jp/ir-f.html ※ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。

大株主

株主名	名寄株式数(株)	持株比率(%)
株式会社ソディック	6,477,947	12.12
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)	1,832,200	3.43
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,770,100	3.31
RE FUND 107-CLIENT AC	1,142,772	2.14
ソディック共栄持株会	906,800	1.70
株式会社三井住友銀行	850,000	1.59
有限会社ティ・エフ	850,000	1.59
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口5)	843,800	1.58
古川 宏子	800,000	1.50
古川 健一	756,001	1.41

株主名簿管理人 同連絡先	みずほ信託銀行株式会社 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324 (通話料無料)
特別口座の管理機関 同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都府中市日鋼町1-1 新東京郵便局私書箱29号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第1部 証券コード:6143



リニアモータ駆動
高速・超精密
形彫り放電加工機「AP30L」

新製品AP30Lが第61回「十大新製品賞 本賞」を受賞しました

超精密加工領域における、リニアモータ駆動形彫り放電加工機「AP30L」を2018年11月より発売いたしました。数値制御 (NC) 電源装置、次世代パワー半導体による放電回路、人工知能 (AI)などを自社開発し、最新技術を搭載した形彫り放電加工機の最上位機種となります。最高品質の金型を最小コストで製造することを目指し、微細な仕上げから荒加工までの全ての領域で高速化を実現いたします。その性能が評価され、日刊工業新聞社が選定する2018年「第61回 十大新製品賞」*の本賞を受賞いたしました。

*「十大新製品賞」:モノづくりの発展や日本の国際競争力の強化に役立つ製品を、その年に開発あるいは実用化された製品の中から、日刊工業新聞社が選定し、表彰する制度です。